

ティーチングポートフォリオ

佐賀女子短期大学 地域みらい学科 前山 由香里

1. 教育の責任

この科目は「障害の理解Ⅰ」で学んだ基礎的な知識を応用・発展させた内容となっている。障がい当事者のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援についても理解し多職種連携について実践的な学びを行うものとなっている。複雑化、多様化していく介護ニーズに対応できる介護福祉士を育成するために、障害分野においても高度な知識や技術を身につける必要がある。

本学福祉とソーシャルケアコースのディプロマポリシーにおいて「介護を必要とする人の心に寄り添い、その立場に立って考えることができ、適切に行動することができる」「介護福祉士に必要な幅広い専門知識と、個別性を理解した根拠のある生活支援技術を身につけている人」を掲げており、それに則ったカリキュラムポリシーとして「介護の基本を重視し、感性豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、介護を必要とする人との信頼関係のスキルについて実践的に学ぶカリキュラム」「介護を必要とする人の生命や人権を尊重し、自立支援の視点から生活支援を理解するカリキュラム」を掲げている。

その評価基準では「④介護を必要とする人に共感的な態度で接することができる、その人の立場に立って考えることができる」「⑤介護を必要とする人に共感的態度で接することができる、その人の立場に立って考えることができる」「⑦一人ひとりの人権と尊厳に配慮した介護ができる」「⑧介護実践の根拠となる知識、技術が理解できる」と関連している。

2. 教育の実施における理念

この科目の教育の意義・目的として以下のことがあげられる。

- (1)障害のある人を地域で支えるためのサポート体制について理解する。
- (2)障害のある人の地域生活を支えるさまざまな社会環境・社会資源・関係職種との連携、チームアプローチのあり方について理解する。

- (3)障害のある人の家族支援のあり方を理解する。

3. 教育の方法

障がい当事者の非常勤の先生に7コマを担当していただき、疾病・生活・就労・家庭生活・趣味などノーマライゼーションの本質を捉えた障がいの理解を深める。また様々な障がい当事者のゲストティーチャーによる講義を行うことで、障害の特性に応じた医学的側面からの理解、心理的側面からの理解について理解を深める。

障害者支援の実践経験がある実務家教員として、現場におけるさまざまな事例を提示しながら、学生たちの身近な例を題材にして理解を深める。

4. 教育の成果

この授業を受講後に、障害者施設での実習を希望する学生が増加した。また基礎教育科目の「地域みらい学Ⅰ・Ⅱ」において、授業担当である前山のチームは、アクティブラーニングの一環で、障害のある人と学生とが小グループに分かれ、佐賀県内の飲食店や、公共の建物などが「障害のある人にとって優しいか」について調査をする演習を行った。

その活動に多くの学生が参加したことで、この障害の理解Ⅱの目的のひとつである「地域生活を支える社会環境」について、学生自身で取り組むことで、理解につなげることができた。

この科目の評価は、授業で使用したプリント持ち込み可で筆記試験を行った。平均点は84点であった。

授業アンケートによる、学生による到達度評価については、到達目標を達成したかとの質問に対して「5」が45%、「4」が36%であった(回答率69%)。

学生の満足度における「総合評価」については、「5」が55%、「4」が32%であった(回答率69%)。

5. 目標

障がい当事者の先生の講義を受けることで、制度やノーマライゼーションの基本的理念を、実践力として身につけることができる。障害の受容過程、家族への支援につ

いても具体的にイメージ化することができ、当事者の立場に立って考えることができることを目標としている。